



熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部

第42号

平成30年8月25日 発行

(公社) 日本山岳会熊本支部

熊本市中央区帯山 1-25-17-801

山本 直 方

編集・発行者 中林 暉幸

目 次

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 平成30年度熊本支部通常総会報告 …山本 直 | 7. 活動報告 |
| 2. 平成30年度熊本支部事業計画 | ① 春の山野草観察会：小岱山……城戸邦晴 |
| 3. 平成30年度熊本支部新執行役員 | ② 岩登り講習会：植木・岩野山…安場俊郎 |
| 4. 熊本支部新役員就任挨拶 | ③ 個人山行：祖母～大崩山縦走…佐藤正樹 |
| 5. 第7代熊本支部支部長の任を終えて…松本莞爾 | ④ 個人山行：富士山登山………土井 理 |
| 6. 第3回「山の日」登山祭計画 | 8. 事務局より |
- 登山計画書(届)・個人情報の取扱い

1. 平成30年度熊本支部通常総会報告 …… 山本 直

開催日 平成30年4月15日(日) 午前9時30分～11時30分 続いて食事会

場 所 熊本県婦人会館 3F 大会議室

出席者 会員37名に対し出席者21名、委任状7名、計28名により成立

他に準会員・会友18名の出席を得て行われた。

- 総会式次第
- | | |
|----------|----------|
| 1. 開会の言葉 | (安場事務局長) |
| 2. 支部長挨拶 | (松本支部長) |
| 3. 議長選出 | (松本支部長) |
| 4. 議案審議 | |

- | | | |
|-------|------------------------------|----------|
| 第1号議案 | 平成29年度事業報告 | (安場事務局長) |
| 第2号議案 | 平成29年度収支決算及び60周年記念事業特別会計報告 | (中林会計担当) |
| 第3号議案 | 平成29年度収支決算及び60周年記念事業特別会計監査報告 | (池田監査) |
| 第4号議案 | 平成30年度事業計画(案) | (安場事務局長) |
| 第5号議案 | 平成30年度収支予算(案) | (中林会計担当) |
| 第6号議案 | 支部規約(内規)改正 | (安場事務局長) |
| 第7号議案 | 平成30年度新役員(改選)について | (安場事務局長) |

第1号議案～第5号議案はほぼ執行部提案の通り承認され、第6号議案は執行部役員会において再検討の上、来期再提案することとなった。第7号議案は次に示す通り承認された。(内容の詳細は「平成30年度日本山岳会熊本支部総会資料」をご覧ください。)

2. 平成30年度熊本支部事業計画

平成30年度日本山岳会熊本支部事業計画					
	予定日	項 目	区分	主担当	副担当
1	4月15日(日)	平成30年度熊本支部通常総会 婦人会館(実施済)	D63	安場	
2	5月27日(日)	山野草を見る会 玉名市小岱山(実施済)	C43	城戸	石井
3	6月10日(日)	登山技術講習会(岩登り) 植木町岩野山(実施済)	A5	安場	石井
4	7月12日(木)	～16日(月)北アルプス遠征登山(9月に延期)	D61	佐藤	坂本
5	8月4日(土)	～5日(日)沢登り研修会(砥用町雁俣山津留)	A4	石井	安場
6	8月11日(土)	山の日協賛登山祭(俵山) 県岳連と共催	A8	中林	山本
7	8月25日(土)	夏季例会(ビールパーティ)	D63	山本	岩下
8	9月22日(土)	～23日(日)第11回九州脊梁山脈トレイルラン支援	A8	松本	中林
9	9月14日(金)	～17日(月)北アルプス遠征登山	D61	土井	
10	10月14日(日)	八方ヶ岳(平成30年度秋の森林保全巡視登山)	A8	田北	山本
11	10月27日(土)	平治岳(秋の登山教室) 男池登山口から平治岳	C41	松本	浦川
12	11月3日(土)	宮崎ウエストン祭高千穂町三秀台、4日記念登山	D63	田北	山本
13	12月2日(日)	～17日(月)山の写真展 山の店シェルパ	A8	田北	城戸
14	12月9日(日)	遠征登山報告会 パタゴニア(安場)	A8	田北	城戸
15	1月19日(土)	新春晚餐会 熊本市内	D63	山本	岩下
16	1月26日(土)	～27日(日)冬山講習会 法華院山荘から大船山	A5	佐藤	土井
17	2月1日(木)	～11日ニュージーランド 11日間		宇都宮	
18	2月23日(土)	～24日(日)冬山登山研修会 広島県「恐羅漢山」	A5	松本	土井
19	3月3日(日)	干支の山登山 猪子伏山 あさぎり町	A8	山本	岩下
20	3月9日(土)	～10日(日)宮崎支部との交流登山	D63	山本	安場

3. 平成30年度熊本支部執行役員

支部顧問	本田誠也(5421永年会員)	
支部顧問	工藤文昭(8190)	
支部顧問	松本莞爾(8411)	
支部長	中林暉幸(14305)	新任
副支部長	土井理(15663)	新任
常務委員(事務局長)	山本直(15435)	新任
委員	石井文雄(13852)	
委員	安場俊郎(13889)	
委員(自然保護担当)	田北芳博(14459)	
委員	宇都宮信夫(14462)	
委員	城戸邦晴(14831)	新任
委員	松本博美(15432)	
委員	佐藤正樹(15608)	
監査	池田清志(14310)	
監査	橋本悦子(14779)	新任

平成29年度は支部創立60周年の節目にあたり、記念事業、記念誌発刊等と多忙な年でした。これらの行事を陣頭に立って指揮してこられた松本莞爾前支部長、安場前事務局長をはじめ、廣永峻一委員、千々岩泰子監査が退任されました。大変お疲れさまでした。有難うございました。

4.熊本支部新役員就任挨拶

支部長就任にあたって

14305 中林 暉幸

この度、熊本支部の支部長を仰せつかることになりました。小さい所帯ながらも60年の歴史を刻む当支部を率いてきた歴代の支部長に比して非力な私にとって、いささか荷が重く戸惑うところですが、支部顧問各位の指導の下、役員はじめ会員会友の皆さん方のご支援をいただきながら支部の運営に微力を尽くしていきたいと考えています。



幼いころより、西の空を眺めまた東の阿蘇の噴煙のなびく方角を仰いで明日の天気を占うのが日常の、山間の貧農に育ちました。農事の手伝いの合間には、夏は阿蘇を源とする白川に魚を求めて遊び、冬は鳥を追って野山を駆け巡ったものです。以来この方ずっと阿蘇の山懐に抱かれて今に至っています。教職に身を置き高校山岳部を担当することになって、全国高校総体にも十数回参加させていただくうちに、いつしか山にはまっていった次第です。職を辞し身体が自由が利くうちにと、十数年前誘われるままに熊本支部に入会しました。気楽に山を楽しもうと思っていたところですが、支部長という思いがけない事態に、改めて気を引き締め直しているところです。

支部の課題は多々あります。例にもれず本支部も会員の高齢化は必然です。それに伴う会員の減少傾向にどう対処して、若返りのために新規加入者増に取り組んでいくかは大きな課題です。近年幸いにも意欲的な会員による新しい取り組みも提案企画され、徐々にではありますが少しずつ魅力ある支部に発展しつつあるのではないかと思います。これらのことを外部にもPRしながら、会員の増加にもつなげていければと期待しています。活動が増えれば事故の可能性も増加します。個人山行を含め登山事故の防止・安全登山に対する意識の向上も図らねばなりません。前執行部から取り組んでいるこれらの課題をさらに推進発展させていく必要があると思います。各方面の皆様方の一層のご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

副支部長

15663 土井 理

この度、熊本支部の副支部長にご推挙いただきました土井理(ドイオサム)です。

熊本市南区にて循環器科を中心としたクリニックを行っています。

日本登山医学会の国際認定山岳医として九州内或いは国内で講演や講習会等で話す機会を頂き、多くの国内山岳関係者の方々と接することができました。日本山岳会にお世話になる様になりました契機もこの為です。「山の店シェルパ」の医療アドバイザーも仰せつかっております。

登山は九州の山々、北アルプス、八ヶ岳等を中心に入って、沢、登攀、冬山等を満喫しております。体力保持に山の中をトレイルランニングし、自然と戯れております。立場上周圍の方々には安全な登山をと指導しているのですが、個人山行となると、時間がなく傍目にはかなり厳しい登山をしているのが現状です。「皆が安全に帰ってこられる登山」を目指して努力していきたいと考えております。まだまだ経験少ない若輩者ですがよろしくようお願い申し上げます。

事務局長

15435 山本 直

今回事務局長をお引き受けすることになりました山本直です。平成 22 年会友、平成 25 年 11 月会員、平成 26 年 4 月から熊本支部の役員を仰せつかっております。山を再開(実際は始めたと同じですが)したのは 50 歳からで、まさに中高年の山登りです。

今回事務局をお引き受けすることとしましても、前事務局長の安場さんに比べ、そのキャリアの差は歴然としており、誠に恐縮しております。安場さんには引き続きご指導を頂きたいと思っています。とにかく安全第一の山行を心がけて参りたいと考えています。

委員

14831 城戸 邦晴

今度役員を務めることになりました。日本山岳会に加入して 8 年になります。子供のころから山の中にいるのが好きでした。家の前に大きな森が広がっていて、いつごろからか学校から帰るとよくその森の中に入っていきようになりました。少し大きくなって登った山は地元の小岱山でした。ある時、雑誌で白馬大雪渓に行く登山者の列の写真を見て、別世界を見たような感動を覚え、ここに行きたいと思いました。しかし長じて最初に登った北アルプスは穂高でした。その魅力にとりつかれ、繰り返し槍穂高に出かけていきました。白馬岳のことはいつか頭から消えていきました。当時の気持ちを思い出したのは最近で自分の山の原点を考えていた時です。今、無性に後立山連峰に行きたくなくなっています。そして白馬三山、鹿島槍ヶ岳、針ノ木岳へと縦走したいと思っています。体力は衰えても山に対する情熱は衰えることはありません。高校、大学時代を山岳部で過ごしたかった、人生の全てを山にかけてもよかったなと思っています。残りの人生をどう生きるかと問われれば、山に生きたいと答えるでしょう。皆様のお役に立つ活動ができればいいなと考えています。

5. 前支部長退任の挨拶

第 7 代熊本支部長の任を終えて

8411 松本 莞爾

平成 26 年 4 月、前支部長の工藤文昭先輩の後任として、熊本支部長の指名を受けて、歴史ある日本山岳会熊本支部長をお引き受けし、二期 4 年間の任期を全うし、平成 30 年の 4 月の支部総会でその任務を終えることになりました。その間、会員の皆様や J A C 本部、全国各支部の会員の皆様方には、さまざまの場面でお世話になり、大変ありがとうございました。

過去に高校山岳部の顧問として引率の任と、また登山専門委員としての高体連のお手伝いをしていますが、自身の知識と技術の向上が必要と考え、文科省(当時は文部省)登山研修所の研修会(春夏冬の研修)や高体連の登山研修会によく参加したものです。それも知識の大事さや経験が、生徒を山に連れていく者としての責任が必要だったからです。その後もいくつかの山岳会に所属し、指導的立場になりましたが、その為、また自分の考えとして、グループ登山がグループワークやいろんな知識を得るために必要と感じ積極的に集団登山を実施してきました。そのために指導的な立場の登山が多く、言うならばお世話をする立場が多かったように思えます。今回伝統ある日本山岳会熊本支部の支部長を引くことにより、そのお世話係から解放される形になり、ある意味、責任からの脱却が出来る状況になりました。

高校生山岳部の生徒を引率していたこともあり、常に安全登山を心掛け、事故を起こさない事

が大前提でしたので、物足りなかった部員もいたのではと思いますし、いろんな山岳会の山行でも安全に関する注意事項が多かったのではと思っています。支部長時代でもかなり厳しいことを言ったり、安全登山のための計画を強制したりしたのではないかと、心配している今日この頃です。

私の信条として、単独登山行動では危険を伴い、また知識や技術の情報が十分に得られないので、山岳会などの山仲間や先輩登山家の指導の下、鍛錬、訓練等を通して真の山仲間として命を預けられるまでの努力が必要に思っています。また、自分の置かれた状況は常に把握して特に山においては、責任を感じていました。これは高校生を山に連れて行った頃の責任感と一致します。さらに私が大切にしていることは、今の自分があるのは山に誘ってくれた先輩方の技術的指導、知識などを教わったことにあると大変感謝し、先輩方への感謝の念を忘れないことです。

4年前に工藤前支部長からお引き受けした後、事務局長時代から「支部の活性化」「会員の増員」などを骨子とした事業を基本に役員の方には大変ご苦勞をおかけしました。特にこのころから、本部の連絡はすべてメールによるものとなり、特に事務局にはご苦勞をおかけしたと思います。そして、昨年の支部設立60周年の記念事業の際には、一等三角点の基本調査を会員の皆さんにお願いしました。これが、皆様の登山経験に追加されたか、または厳しい作業を押し付けたのではないかと、自問自答をしたこともありました。しかし、停滞していた支部行事の活性化には、会員皆さんの協力もあり、積極的な活動ができたと思います。

そんな中、広島支部の遭難事故があり、JAC本部としては個人登山の計画書まで、提出するよう要請がありました。中には楽しい山登りをしたいとの意見もあり、計画書にはこだわりたくないという方がおられます。そんな板挟みにもなりながら、要するに事故のない支部でありたいとの気持ちは大きいものでした。今後の支部を担う皆さんには、登山の楽しみは勿論のこと、「私を山に連れてって」ではなく、積極的な登山活動と技術の向上と知識の習得を、自己の責任を甘受しながら、支部活動をエンジョイしていただけたらと、老婆心ながらお願いするのみです。日本山岳会に入会して登山活動をやりたいという方が少ない現状で、会の運営に苦勞される姿が目に見えようですが、新しい中林暉幸支部長の手腕を期待するものです。そして、地域社会に貢献できる会として、益々の知識や技術の研鑽がなされることを祈念します。

平成 29 年 11 月 熊本支部設立 60 周年記念式典で挨拶をいただく

松本莞爾 前熊本支部長



本部 重廣副会長



6. 平成30年度 第3回熊本「山の日」登山祭計画

第3回熊本「山の日」登山祭実行委員会

熊本県山岳連盟と公益社団法人日本山岳会熊本支部が主管となって実行委員会を立ち上げ、熊本「山の日」登山祭を開催するようになって、今年3回目を迎えます。初回は玉名地域の小岱山、昨年は菊池地域の鞍岳で行いましたが、今回は阿蘇外輪山の一角・俵山で実施することになり、鋭意準備を進めています。

今年は地元行政機関の阿蘇郡南阿蘇村、西原村をはじめ県内アウトドアショップ3店舗の御後援をいただきました。また参加する子供さん達にも喜んでもらえるようにと、熊本県のキャラクター「くまモン」の記念バッジを参加者に差し上げることにしています。多くの皆さん方の参加をお待ちしています。(8月7日)

第3回熊本「山の日」登山祭実施要項

主催 (公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

主管 熊本県山岳連盟・(公社)日本山岳会熊本支部

後援 阿蘇郡南阿蘇村、西原村、山の店シェルパ、好日山荘熊本パルコ店、モンベル南阿蘇店

- 1.主旨 第3回国民の祝日「山の日」に当たり、多くの県民が故郷の山に登り、熊本の自然の豊かさに感動し、山の恩恵に感謝するとともに、熊本の自然を守り、育て、後世に引き継ぐことを心に銘記する日とする。
- 2.期日 平成30年8月11日(土)
- 3.場所 阿蘇郡西原村・南阿蘇村 俵山(1095m)
- 4.日程 8:00~8:50 俵山峠展望台で受け付け
9:00 開会式(俵山展望台) 代表挨拶、登山・熱中症対策、準備運動
9:20 登山開始
11:00 俵山山頂で山頂集会 代表挨拶、「山の日」宣言
12:00 下山開始
14:00 閉会式
- 5.参加費無料 保険には集団加入し、保険料は大会費用で負担する。

8.11くまもと山の日
ふるさとの山に登ろう!



©2018熊本県くまモン・#K201722

主催:(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会 主管:熊本県山岳連盟・(公社)日本山岳会熊本支部

7. 活動報告

① 春の山野草観察登山：小岱山

(担当) 城戸邦晴

1. 期日；平成 30 年 5 月 27 日(日)
2. 場所；小岱山、蛇ヶ谷公園から笹千里
3. 参加者；原田成治、松本莞爾、石井文雄、安場俊郎、中林暉幸、田北芳博、橋本悦子、宇都宮信夫、松本博美、山本直、江島博之、坂本雄二、岩下律雄、馬場昌敏、植木隆俊、植木啓子、脇本公明、森尾奈美、門司恵美子、城戸邦晴（担当）

(以下一般参加) 田中和代、加藤稜子、川原サチ子、山下清一、春井美和、
山下桂造（講師・玉名女子高教諭）、 合計 26 名

4. 行程と観察記録；

9：00 蛇ヶ谷公園西側駐車場に集合

講師の山下先生の簡単な説明の後、9：15 出発、急な遊歩道を登る。脇にはヒメジョオンの花が咲いていた。9:35 展望台着、天草まで見通せる素晴らしい展望を前に、講師より玉名平野に関する説明を受ける。それから山に入り笹の繁る九州自然歩道をゆっくり進む。昔、笹が一面を埋め尽くしていたので笹千里という名が残る。途中、登山道の下が段状になっているのはここが畑だったことを示している、との説明を聞く。また 50 年ほど前の山火事でかなりの部分が燃えて、そのあとにアカシア、オオバヤシャブシなど生育の速い木々を植えたが、それらはもう役割を終えてほとんどない。クヌギが多いこともこの山が生活の場だったことを示す、とも。歩く道すがら、シイ、ヒトツバ、シャシャンボなどを見た。キダチニンドウも花を見られた。そしてネジキが白い花をびっしりつけていた。樹肌が捻れているように見えるからこの名があるとの説明を聞く。イノシシが泥浴びしたあと身体を幹にこすり付けた跡があり、近くにヌタ場があると思われた。ソウシチョウとウグイスの囀りがしきりに聞こえるが姿は見えない。山下先生は小さなスピーカーを腰につけていたが、細い道を 26 人が一列になって歩くのでマイクの音が後ろまで届か

ネジキ

ツクシタツナミソウ



ず、先生は中部まで戻り説明することになり、忙しい。それでもあまり遅れることもなく進んだ。

10:50 笹千里着。一息入れる。好天気には汗ばむ。

11:00 笹千里周辺の植物観察で再び森へ入る。仁王ヶ滝に通じる道を下る。その先にツクシタツナミソウの群落が紫の可憐な花をつけて待っていた。シシガシラ、イノデ、斜面を登り、カギカズラ、ハリギリ、ヤマウルシ、コガクウツギ、ウラジロノキ、ヤブムラサキ、コハウチワカエデ、ネズミモチを見る。崖を登って小さな道に出たらそこにクマイチゴとナガバモミジイチゴが赤い実をつけて待っていた。食べたらずいとうまかった。タラノキ、ヌルデ、ノリウツギなど見る。オカトラノオは咲き始めの状態だった。完全に咲いたところを見たい花だ。

12:15 笹千里駐車場に戻り、食事。鹿児島かからの団体がバスで来ていたが、下山し帰っていた。ここは九州百名山なので意外と遠方からもやってくる。

13:00 下山開始。林道を下る途中で谷に入る。普段歩かれることのない山中で、落ち葉が積もり、水が流れる沢筋を時には枝をのけて下って行った。ゴンズイ、コクラン、ウバユリ、イヌビワなど見る。メンバーが見つけたウスギムヨウランに山下先生が驚く。ギンリョウソウは花の名残を見る。1時間ほど谷を歩いて林道に出た。一同ほっとした表情。



コクラン

あとは舗装された林道を歩く。山の湧水

を利用して道路わきに作った鹿威し(ししおどし)が目をつけた。よくできていて、見ているうちに水が溜まり、竹筒が傾き、カーンという音が響いた。14:15頃 蛇ヶ谷公園駐車場に戻る。

14:40 移動 14:55 荒尾市府本着。トキワマンサク(左下)自生地を見学する。トキワマンサクはマンサク科の常緑中高木で、春に薄黄色の白い花をつける。中国揚子江沿岸部からインド東



部が原産地であるが、日本での自生地は全国に3か所しかなく、三重県の伊勢神宮、静岡県湖西市神座、そして荒尾市小岱山。熊本県の指定稀少野生動植物に指定されており、保護を呼び掛ける説明版が立っていた。ここには7~8本の樹が大きく繁っていた。花はすでに終わっていた。この場所は私有地だが、張り巡らされた金網を超えて伸びた枝が切られていたのが痛々しい。周囲はミカン畑、

小岱山の中腹にあって、駐車場からは眼下に荒尾、長洲の町並が広がり、有明海の向うに雲仙普賢岳・平成新山が浮かんでいた。

15:20 現地解散。

笹千里駐車場にて



② 岩登り講習会：植木・岩野山

(担当) 安場俊郎

2018年6月10日(日) 曇り 午後降雨

早朝、小雨があったが予定通り岩野山での講習を実施した。

午後、昼食中に雨がひどくなったので予約していた山東コミュニティセンターに移動した。

各自、1本づつしか登れなかったが、岩登りの感触を経験してもらったものと思う。

8月は沢登りの予定であるので、前日の事前研修の機会を持ってもらいたい。

講師 松本莞爾、土井 理

受講者 石井文雄、安場俊郎、中林暉幸、田北芳博、城戸邦晴、橋本悦子、松本博美、山本 直、佐藤正樹、江島博之、岩下律雄、中村 寛、馬場昌敏、高屋敷しの

8:00 北区役所駐車場集合、ゴルフ場駐車場に各自の車を置けないので、松本、中林、石井、安場の4台の車で植木カントリークラブハウス上部駐車場へ移動。

8:45～ 上部駐車場広場にて事前講習

講師 松本莞爾氏と土井理氏によるハーネス装着、エイトノットでの装着その他よく使うロープの結び方 インクノット、フィッシャーマンノット、プルージック



クライミング用具の説明

ハーネス、ヘルメット、服装、靴、カラビナ・シュリンゲ、下降器(エイト環等)確保器
ハーケン、ナツツ、登攀用ロープ(9mm、10mm、11mm)

10:00～ 岩場へ移動 ウェルカムルートでの登攀練習、西側岩場の下降ルートで懸垂下降の練習、受講者全員1回は登る機会を持ちえた。

13:00～ 午前の部終了、昼食

午後は降雨のため、岩場での練習を取りやめ、山東コミュニティセンターへ移動

多目的室での事後講習、登攀用具の説明等
15:00～ 記念撮影をして終了、北区役所へ移動、駐車場で
解散。



③ 個人山行：祖母山、傾山、大崩山 縦走

佐藤正樹

日時：2018年5月3日（木）～2018年5月4日（金）

参加者：佐藤正樹、中林（サポート）

天気：曇りのち晴れ 強風

行程

1日目：北谷登山口～祖母山～障子岳～古祖母山～本谷山～傾山～杉ヶ越（宿泊地）

2日目：杉ヶ越～新百姓山～夏木山～五葉岳～お姫山～鹿納山～大崩山を経て登山口下山

装備：約12kg

1 泊登山基本装備。テントはツェルト、寝袋はシュラフカバーで軽量化した。
食料は1日分と行動食+予備食料1日分とした。

コース概要

出発時刻／高度：06:32 / 1096m 到着時刻／高度：17:26 / 400m

合計時間：34時間53分 合計距離：54.37km

最高点の標高：1709m 最低点の標高：399m

累積標高（上り）：3703m 累積標高（下り）：4384m

1日目 山行9時間49分 休憩1時間32分 合計11時間21分

2日目 山行10時間48分 休憩37分 合計11時間25分

報告：

「祖母・傾・大崩山」の大縦走はかねてより完結させておきたいと強く思っていた。
一昨年は中林先生と挑戦した大崩・傾・祖母縦走は台風接近による雨風があり杉ヶ越で断念したことがあった。不明瞭な道もあり何度かコースを外れてしまい思うように進めなかったことも原因だった。

昨年は土井先生と日帰りで祖母・傾山周回縦走に挑戦したが、これもあと少しというところで時間切れとなったことから再挑戦を望んでいた。

これらの経験を活かし比較的日の長くなった5月の連休を利用して1泊2日、予備日を1日組んだ計画を立てた。

直前の計画提出にも拘わらず中林支部長から杉ヶ越でサポートをしていただけることになった。

熊本を3日の4時半に出発し北谷登山口に到着したのは6時半だった。

送ってくれた家族にお礼を告げ早々と登山準備に取り掛かった。

下山した帰りも迎えに来てもらう予定であり、なんと優しい家族に恵まれているのだろうとつくづく思う。

準備が整い登山届を出すところで、何やら記念品を配布している様子だった。聞いてみれば祖母山の山開きがある予定だったのだが昨夜の大雨で中止になったようだ。
その関係なのか登山口は早朝にも拘わらず車で満杯の状態だった。

6時32分 記念品のバンダナをもらって北谷登山口から風穴コース





へ出発した。

気合を入れて半袖の格好だったが、気温も低いし風が吹くので防風ジャケットを羽織った。

濡れたスズタケが丁度顔の位置にあり、頭をくぐらせて進むのが面倒だった。

8時3分 祖母山頂到着。抑えめに登った

つもりだったが十分早く着いた。

晴れていればここから始まる縦走路を見渡せるのだろうが、ガスで何も見えないので早々に先に進むことにした。

祖母山から障子岳までは何度も通っており慣れたもので10時に古祖母山に着き、腰を下ろして休憩をとっていると尾平から登ってこられた男性と出会った。

これからの行程を十分に説明をしたつもりだが尾平がゴールだと勘違いされていたようだ。

お先に失礼しますと声をかけ尾平までのトレイルは気持ちよく走れる道で快適だった。



11時過ぎ。尾平を通過する頃ようやく晴れてきた。太陽の日差しが温かくホッとした。現在は本谷山を目指す道も開けた道が続いているが、以前はクマザサに覆われて藪こぎ状態で進んでいたと聞く。



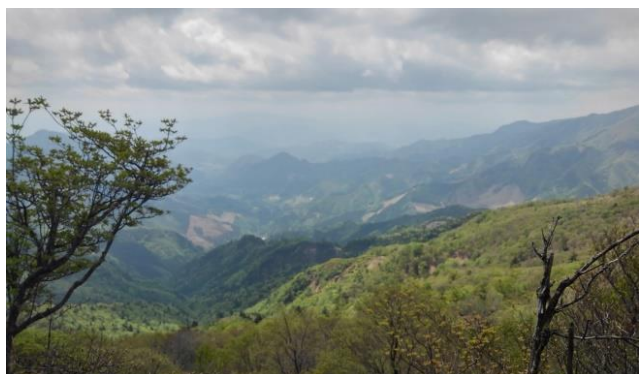
時折振り返れば素晴らしい眺めが広がっており、登り続きで疲れた脚を休めながら暫し鑑賞タイムに浸った。

本谷山を12:21に通過し、九折越に着いたのが13:47だった。

ここから傾山まで1時間で登れば、杉ヶ越までも十分に降りられると安心できたので、最後の登

りを前に十分に休憩を取った。

14:44に予定通り1時間程で傾山山頂に着き下山を開始する。杉ヶ越分岐まで予定では2時間程でトンネルまで行けると思っていたが、今回の縦走で唯一初めて通過する場所だったので途中のロープが続く区間では何度か道を見失い難儀した。



こんな道を日暮れ前に通過するなんてトンデモナイと思った。

下山途中で中林先生が杉ヶ越到着の連絡を受けた。急斜面の後はまだらかな道が続くので最後の頑張りだと駆け足で進んだ。

17:54 杉ヶ越神社横にテントを張っていた中林先生と合流。ツェルトを張る予定だったが大人2人寝れるテントだったので甘えさせてもらった。

ビールに夕食までご馳走になり、日暮れとなった20時には就寝することができた。



この日使用した水はラーメンのお湯を含めて1.5L程であり、途中の水場利用もせずに済んだ。朝の寒さが良い結果に繋がった。

更に杉ヶ越で中林先生より水の提供を受けたこと、そしてテントの設営・撤収の時間が省けたことは今回の縦走でかなり大きな手助けとなった。

あとは寝るだけだったのだが一晩中強風雨がテントを叩きつけていたので、あまり眠ることができなかった。ツェルトだったら間違いなく吹き飛んでいただろう。

あまり寝付けないままの起床だった。こんな強風の中、大鋸小鋸、ましては大崩山の危険箇所は問題なく通れないのではないかと気持ちが折れていた。

朝食を済ませ、杉ヶ越は鞍部だから風が一番通る場所だという中林先生のアドバイスで気持ちを切り替え出発を決めた。中林先生も本日杉ヶ越～傾山を単独登山されるというから随分と勇気ももらい、朝6時に万全の体制でスタートした。



中林先生の言う通り風が強かったのは谷間の杉ヶ越だけだったようで清々しい森の中を歩いて新百姓山を目指した。踏み跡、テープもしっかりしており非常に歩きやすいことから登山客も多いのだろうと思った。



昨日の疲れもあり少し脚が重かった。新百姓山は予定タイムより少し出遅れてしまったが慌てずに夏木山を目指した。通常の登山ルートはテープもしっかりしており問題なく進めるのだが、鹿の背、大鋸小鋸区間は分かりづらいところもあり右往左往することが多かった。そんなときはテープのあるところでじっと焦らずに地図と回りの景色を確認していれば次の



テープ、ロープを見つけることができた。

9:51に夏木山山頂に到着。

ここからフカフカの縦走路に開けた景色も楽しみながら五葉岳を目指した。

祖母からここまで数えきれない程のアケボノツツジ、ミツバツツジ、シャクナゲといった花

も咲き誇っていたが、今回は先を急ぎすぎて写真をあまり撮っていないのが残念だった。

10:46 五葉岳手前は尾根筋を通らないところがあり、若干間違えながらも山頂に着いた。ここで今日の行程の半分は終わったかと思うと、気持ちも非常に楽になり、残りも気を引き締めて自分のペースで進もうと決めた。五葉岳



からあっという間にお姫山を通過し、鹿納の野を通過して独特のきわだった鹿納坊主を目指した。途中のヤセ尾根も手強く回り道もしながら疲れた時は新緑の原生林の素晴らしさに癒された。

12:32 鹿納山山頂に着いた。山頂付近は何も遮るものがなく展望も素晴らしかった。

もうここまで来れば最後の大崩山に登るだけなので、ゆっくり昼食でも食べたい気分になった。



次の開けたところで食べようと先に進んだが、グループ登山客がそれぞれのピークで食事をされており中々落ち着いて食べられそうなところがなく、結局鹿納谷分岐の手前でようやく腰を下ろすことができた。カレーメシというお湯を入れて作れるインスタントカレーが疲れた体に染み渡る。カロリーも高く汁も残らないので最近の山では気に入って食べる人が多い。十分に休憩を取って最後の大崩

山を目指した。

じわじわと長い登りが続くのだが、急登ではないのでキツさはなかった。脚の疲れも感じながら14:52 大崩山山頂に到着。あとは2時間もかければ十分に下山できるだろうと想定したが、大崩山の下りは一番気が抜けないところである。

坊主尾根を通るつもりだったが、山頂から目の前にある二枚ダキコースを降りたい気分になっ



てしまった。コースタイムを確認してもこちらが早く下山できそうだと予定を変更した。普通だったら通らないような涸れ谷を降り、目印一つないだっ広い荒野を下山していると不安になった。二枚ダキに右折する目印は細やかにしては不親切だとも思った。

迫力ある二枚ダキの巨岩には感激したが、一人で通るには心細いルートが続いた。勿論テー



プも十分に付いているのだが、木に赤いスプレーで目印が付いているのが正直ありがたかった。このスプレーに問題提起をした人もいたようだが本質は何だろうと疑問に感じた。

林道出合に出て、林道を通るわけだが崩壊して廃れた道を通っていると修行のような気分になった。あと少しだと家族にも連絡したが、最後に痛恨のミスをしてしまっていた。

祝子川温泉に直接行ける林道を通って帰るつもりだったが、着いたのは大崩山登山口だった。

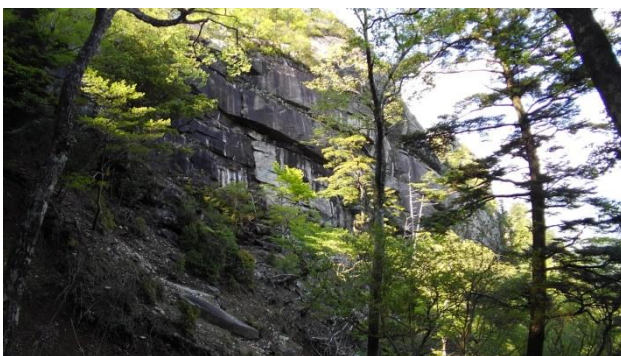
地図で確認すると分岐を1つ間違えている。

最後の最後に間違えるという自分の失態を悲しみながら更に遠くなったゴールまでの車道が長くへトへトになった。

こんなことなら二枚ダキを通らずに坊主尾根を楽しみながら降りたかったと思うが、ここは無事に下山できたということが重要なのだ。

家族と合流し、今回の大縦走を無事に終えることができた。

今回の成功は水の消費が最小限で済むような天気だったこと、何より中林先生のサポートもあり、グループLINEを通じての応援、そして家族の送迎には感謝の言葉しかない。自分の恵まれた環境を改めて実感させてもらった。



大縦走においては小さなピークを越えるという達成感が積み重なり、終えた時の達成度と云ったら表現のしようがないものだと改めて実感させてもらった。

非常に疲れた2日間であったが、やってよかったと心より思う。

④ 個人(グループ)山行：富士山登山（富士宮ルート） 土井 理
担当・リーダー 土井 理

- 1、 期日：2018年7月14日（土）－7月16日（月 祝日）
- 2、 ルート：富士山 剣ヶ峰 富士宮ルート
- 3、 参加者6人：土井理、香川茂雄、牧明、片岡康文、直海晶二郎、松崎真智
- 4、 日程及び行程・概要

7月14日：18:30 熊本駅集合、熊本駅 19:08 発 つばめ342号。19:57 着博多駅
20:01 発博多駅 のぞみ98号 22:45 着京都駅
23:18 発富士急行バス 河口湖駅行き

7月15日 07:03 着富士宮駅 08:10 発富士宮駅 富士宮口5合目行きバス
09:30 着富士宮口5合目



10:19 富士宮5合目より登山開始。途中に高地登山の呼吸法を指導しながら登山する。

6合目(2493m)10:37 — 新7合目(2800m)11:32 — 元祖7合目(3010m)12:39
8合目(3250m)13:46 — 14:18 3289m 地点まで登った状態で1人動きが悪くなり8合目に戻る。

14:40 宿泊予定地8合目(3250m)池田館 に早々入って休憩・翌日に備える。

富士8合目

池田館の建物が増設されて少しきれいになっていた。3人部屋を2部屋使用し宿泊。
17:00 夕食はカレーライス、水が無いのでお茶は1人に1杯まで。翌朝1時起床2時出発とした。

7月16日 01:00 起床。朝食は前日頂いたパン2個、ソイジョイ1個、コーヒー牛乳1個。朝食も早々に出発準備、登頂に不要な物を8合目にデポして出発する事とした。全員の用意が整ったので、01:39 ヘッドライトを点灯させて8合目を出発

9合目(3410m) 02:11 — 9合5勺(3550m) 02:52 以降登山者で渋滞していた。

03:45 全員山頂に登頂できた。04:16 全員で剣ヶ峰、標高3776m 登頂。記念撮影した。

日の出は04:30頃で、少し雲がかかっていたが、ご来光にも遭遇できた。

お鉢周りは希望者がいなかったで、写真撮影等に時間を割くことした。

4:30 になり浅間大社奥宮が開き、皆で参拝した。郵便局の営業は6:00からなので、郵便は



あきらめる事にした。

朝焼けの富士剣ヶ峰

04:50 下山開始——06:04 8 合目で
デポした荷物を回収し下山続行。

途中膝が痛く 2 人が遅くなった為、土
井班として 3 人は早めに下山し 6 合目
から宝永火口にピストン。香川班 3 人
は直接 5 合目のバス乗り場まで下山。
バス乗り場で合流する事とした。



6 合目 07:57——宝永火口淵 08:09—

—6 合目 8:25——5 合目登山口 08:35 下山した。

09:00 発 富士宮口 5 合目 新富士駅行き——10:47 新富士駅到着。

以降、新幹線で新富士駅—名古屋駅—博多駅と新幹線を乗り継いで、16:52 熊本駅に到着解
散した。

5、感想

3 日間とも天候に恵まれ、15 日は午後から下
界に雲がかかり、眼下で雷が鳴っていたが全く問
題無く上空は晴れていた。16 日は星空であり、
ご来光の時にやや雲が太陽にかかっていたもの
の、オレンジ色の太陽を拝むことができた。全員
怪我無く、高山病の問題もなく、剣ヶ峰に登頂で
き、浅間大社奥宮の参拝もできて、皆さんの心に
残る富士登山になった様であった。

宝永火口縁にて



浅間大社奥宮



富士剣ヶ峰にて



※ご紹介

土井理会員は、今年度の熊本支部役員の改選に当たり、今まで空席であった副支部長に就任していただきました。会員登録こそ最近ですが、厳しい自己研鑽と鍛錬を重ねられ、数少ない国際山岳医として認定されています。日本山岳会では医療委員会委員であり医療・登山の各方面で広く活躍をされているところです。熊本支部としては大変心強く、頼りにできる貴重な存在です。(文責 中林)

8. 事務局より

★会員異動(2017.12～2018.7) (敬称略)

- ・新入会員 (準会員) 馬場昌敏
(会友) 土肥ムツ子、森尾奈美、門司恵美子、外山成臣、園田嘉信
- ・退会 (会員) 寺崎彰、横尾健二、田中朝子
(準会員) 金山春男
(会友) 鏑正博、野田一郎、渡辺暁美

★ 支部行事については、前記のように決定を見ていますが、各行事への参加については先のアンケートによる参加希望調査に基づいて、実施日の1月～2週間前に案内ハガキをお送りします。詳細を確認いただきますとともに参加変更その他ありましたら、早めに担当又は事務局へご連絡をお願いいたします。

★ 登山計画書(届)の提出を！

支部行事は勿論、個人山行についても登山計画書(届)の提出をお願いします。末尾の登山届をご利用ください。届様式はホームページからも入手できます。

◎宿泊を伴う山行(前夜発を含む)

◎岩、沢、雪山(日帰りも含む))

- ・他団体などの主催者により適切に登山計画書が作成されている場合は不要

◎提出先：熊本支部事務局

①メール：syamaf2001@yahoo.co.jp

②FAX：096-381-3096

③郵送：862-0924 熊本市中央区帯山1-25-17-801 山本 直

※各警察署等へは別途提出してください。

★ 個人情報の取り扱いについて

日本山岳会熊本支部では、個人情報保護のため、下記に挙げた利用目的以外には使用しないことをお伝えいたします。

個人情報の利用目的

公益社団法人日本山岳会熊本支部(以下本支部)は、本支部会員の皆様の個人情報を、以下の本支部の事業(1)において、以下の(2)の利用目的に必要な範囲内で利用いたします。なお、提供された個人情報は適切に管理し、これ以外の目的には使用いたしません。

(1) 本支部の事業

- ①登山に関する指導及び研究
- ②登山事故防止に関する啓発
- ③国内及び海外登山の企画及び実施
- ④支部機関紙「熊本支部報」「熊本支部通信」及びその他の図書の発行
- ⑤目的を同じくする他の団体との連絡及び協力
- ⑥自然保護活動の推進
- ⑦その他本支部の目的達成に必要な事業

(2) 利用目的

- ①支部機関紙など各種郵便物を送付するため
- ②登山届提出のため
- ③緊急時の連絡のため
- ④支部主催の行事の案内のため

公益社団法人 日本山岳会熊本支部

あとがき

支部設立60周年を過ぎ、役員も新体制になりましたが、不慣れなためいろいろと行き届かないところもあるように思います。諸賢の皆様方のご指導、ご教示をいただきながら、スムーズな支部の運営と活性化に努めたいと思います。またできるだけ経費節減の意味から、今回、試みに自前での印刷を手掛けてみました。ご意見等を頂きながら改良に努めたいと考えています。忌憚ないご意見、ご感想をお寄せください。

登山計画書

作成日: 2018/ /

ファイル名: _____ 2018/ / ~ 2018/ / 作成者: _____

所属団体名 公益社団法人 日本山岳会 熊本支部					
留守本部 ①	氏名	電話	携帯		
		e-mail			
留守本部 ②	氏名	電話	携帯		
		e-mail			
備考					

山域名	山行形態	
日程	コース	
月 日()		
月 日()		
月 日()		
月 日()		

現地連絡先 (宿泊先等)	名称	電話
	住所	FAX

責任者	氏名	携帯	住所
メンバー人数(リーダー含む)	計	名	

計画書の提出先	・ 各自の留守宅 ・ 在京連絡先 ・ 所轄の警察署 (登山口) ・ 所轄の警察署 (web)		
登山地域の 県警察本部地域課	名称		
	電話		
交通手段が車の場合: 車両No.	持主名/色	①	②
チャーターの場合: バス会社、タクシー会社など			
装備概略 (詳細は別紙)			

特記事項:

役割	氏名	性別 血液型	生年月日 年齢	住所 / e-mail		緊急連絡先 氏名(続柄)/電話番号	山岳保 険加入
				自宅電話番号	携帯電話番号		
				(自宅)	(携帯)	(電話)	
				(自宅)	(携帯)	(電話)	
				(自宅)	(携帯)	(電話)	
				(自宅)	(携帯)	(電話)	
				(自宅)	(携帯)	(電話)	
				(自宅)	(携帯)	(電話)	
				(自宅)	(携帯)	(電話)	